循環「色＝やさしさ」

小南英昭

Cycle「color＝kindness」

hideaki kominami

私たちはこの先、どこへ向かって行こうとしているのだろう。高度成長と共に消費は美徳と踊らされ人間の利便性だけを追い求めてきた結果、自然環境や生態系の破壊、地下資源の枯渇など、近年様々な問題が取りざたされるようになった。だが、私たちはこれらの問題を実生活の中で体感しているとは言いがたい。何故なら多くの人たちは、テレビ、新聞等のメディアを通して捉えているからだ。しかし、身の回りを改めてみると街にはものが溢れ、多くの車が行き交い、所狭しとビルが建ち並ぶ。そんなアスファルトが敷き詰められた街で、自然を感じる事は少なくなった。私たち人間はいつの時代から自然と共存出来なくなったのだろう。

これから私たちは自らの手で環境を再生していかなくてはならない。闇雲に消費する時代は終わった。今後、人々は大量消費と決別し、個人の行動や意志を明確に表し、企業とともに意識を変えていかなければならない。一人の力ではどうすることもできないことでも、多くの人たちが同じ方向に意識を向けることで自然は再生していくのではないだろうか。

また、今日人間の精神的な問題も多く取りざたされるようになった。不条理な事件、犯罪の低年齢化。今、私たちは沢山の問題を抱えて生きている。お金があればありとあらゆるものを手にすることができる時代の中で、人々はものへの欲求だけでは精神的に満たされない事を知り、新たに心の安らぎを求めはじめた。

人は本来やさしさを持っている。人を思いやる心、労る心。だが、日々の生活に追われ自分中心で物事を考えるようになるため、人はこの「やさしさ」を忘れてしまう。私はこの「やさしさ」を人は「色」に置き換え記憶しているのではないかと考える。誰もが日常生活の中で「色」に心を奪われる瞬間がある。それは目の前の「色」と、自分が記憶している「色」とが結びついた瞬間、人は感動し、心の中の「やさしさ」を思い浮かべるのではないだろうか。人はこの「色＝やさしさ」を感じる限り人を傷つけたり、憎しみあったりするはずがない。

めまぐるしく社会状況は変わり、ますます人との触れ合いが少なくなっていくように思われる中。もっと相手の気持ちになって物事を考え、自然環境や人間・植物・動物などの生命に対して、ほんの少しの「やさしさ＝愛」を表に出すことで、地球環境を再生へと導き、未来の子供たちへ地球環境を繋ぐ事が出来るのではないだろうか。

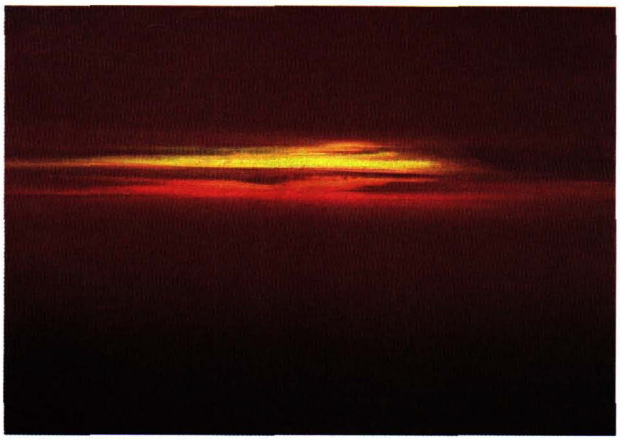
私は、このような考えを「循環」という言葉に置き換え、「Visualization」＝「頭に浮かんだイメージを視覚化する」方法をとって制作をしている。具体的には「循環」というテーマを「かたち」の構成で抽象的に表現するのではなく、「かたち」の要素を最小限にとどめ、私が感じる「色」＝「感情」の組み合わせで表現している。私の作品を通して見る人の心の中に宿っている「色＝やさしさ」を感じてもらう事ができる事を願う。(P97)

循環「色＝やさしさ」

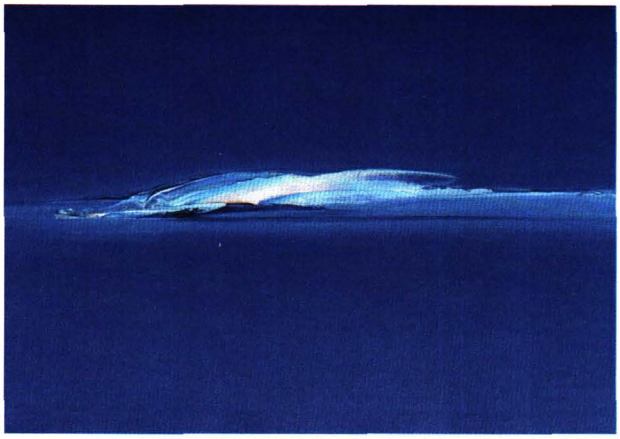
小南 英昭

DATA：2004年 キャンバスにアクリル

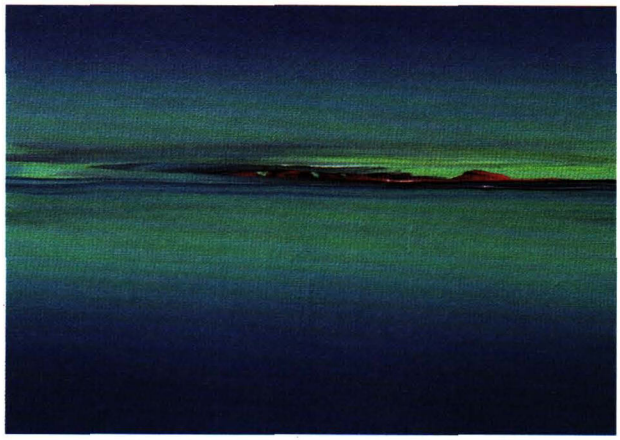
サイズ ①②④⑥ 24.2×33.3cm
③ 22.0×27.3cm
⑤ 37.9×45.5cm



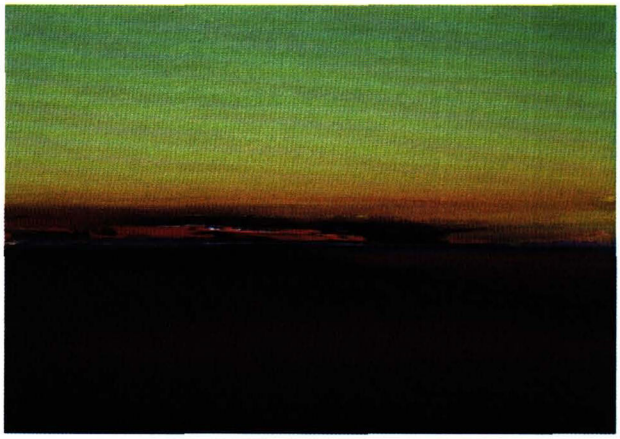
① 喜びを感じて



② 僕はここにいる



③ 迷いながら



④ 自然の中で

⑤ 何かを求めて

⑥ 生きてゆく